

診療科特集 Vol.6

呼吸器外科

呼吸器外科の特徴

- 最新の呼吸器外科治療の提供 (胸腔鏡による低侵襲手術)
- 合併症が少なく、安全かつ確実な手術



2017年度、呼吸器合同カンファレンスメンバー

当院呼吸器外科はスタッフ2名からなり、2名ともに日本呼吸器外科学会の呼吸器外科専門医であります。

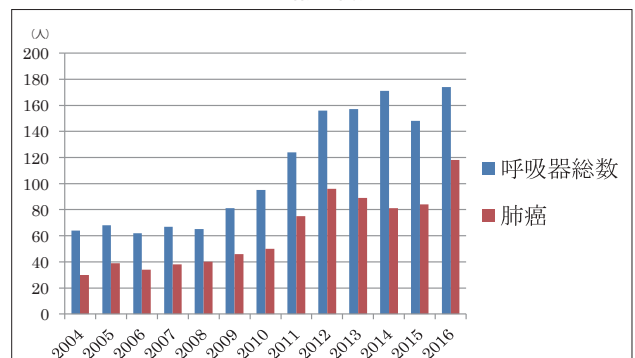
2016年は年間174例の手術をおこない、約6割が肺癌患者となっております(表)。

肺癌は固形癌のなかでも最も予後が悪い癌といわれており、現在の治療方法としては、手術・抗癌剤・放射線治療があげられます。手術を行える肺癌患者は全肺癌の1/3程度です。当院では呼吸器内科専門医・放

射線治療専門医・呼吸器外科専門医によるカンファレンスを毎週行い、患者さんにとって最も安全・確実な治療方法を慎重に検討しております。

2010年に現部長が赴任して以降、手術症例数はほぼ右肩上がりの状況であり、なかでも肺癌症例に関しては過去最高の症例数となっております。県内においてもトップクラスの症例数です。

<手術症例数>



<おもな疾患および治療成績 (2016年)>

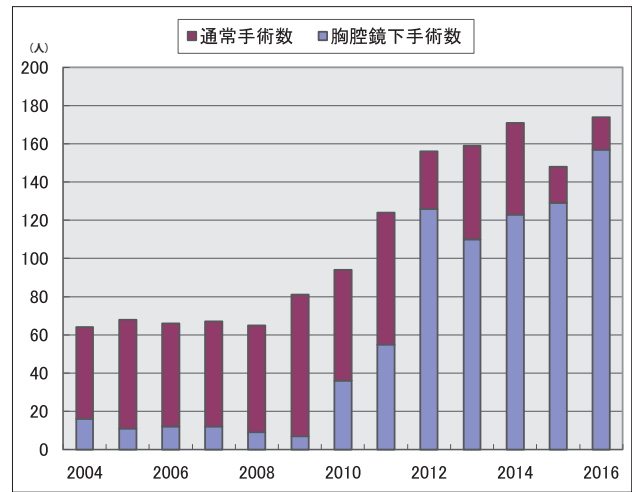
疾患名	症例数	胸腔鏡手術数	死亡退院数
1) 肺癌	118	107(90.7%)	0
2) 気胸	16	16(100%)	0
3) 転移性肺腫瘍	8	8(100%)	0
4) 縦隔腫瘍	13	10(76.9%)	0
5) 膿胸	3	3(100%)	0
6) 肺良性腫瘍	5	5(100%)	0
7) 肺感染症	2	2(100%)	0

低侵襲手術

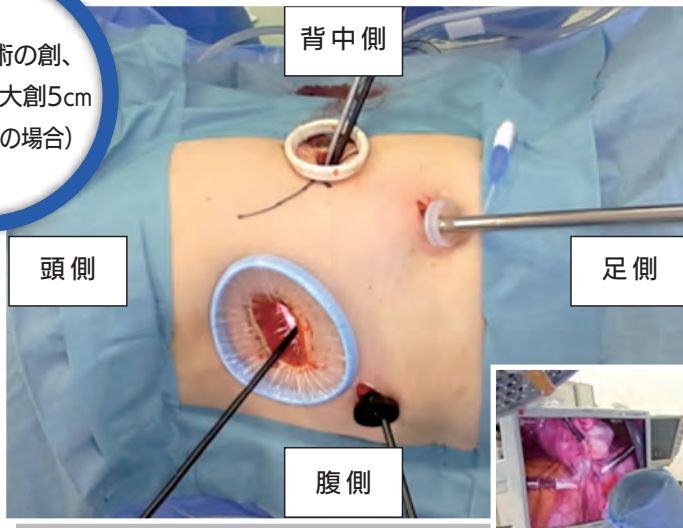
低侵襲手術である胸腔鏡手術にも力をいれており、その割合は年々増加傾向（2016年は90.2%）にあります。胸腔鏡手術においては、術中合併症を極力少なくするように細心の注意を払う必要があります。症例を積み重ねてきた結果、当科におけるその精度はかなり高いものになっていると自負しております。

手術成績は全国平均と比較しても非常に良い結果となっており、2016年の手術関連死亡は0例、再手術が1例、術後合併症は3例（肺炎1例、膿胸2例）となっております。

今後も安全性と確実性を第一に考えて診療を行っていく所存であります。



胸腔鏡手術の創、計4か所、最大創5cm (左側・肺癌の場合)



手術中の風景
術者・第1助手・
第2助手・看護師



2016年の肺癌切除118例に奮闘してくれた
持永浩史先生とローテートの渡辺春香先生